

稲作情報

No.3

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

活着遅く、生育停滞気味。浅水管理で分けつの発生促進を

1 気象経過と生育状況

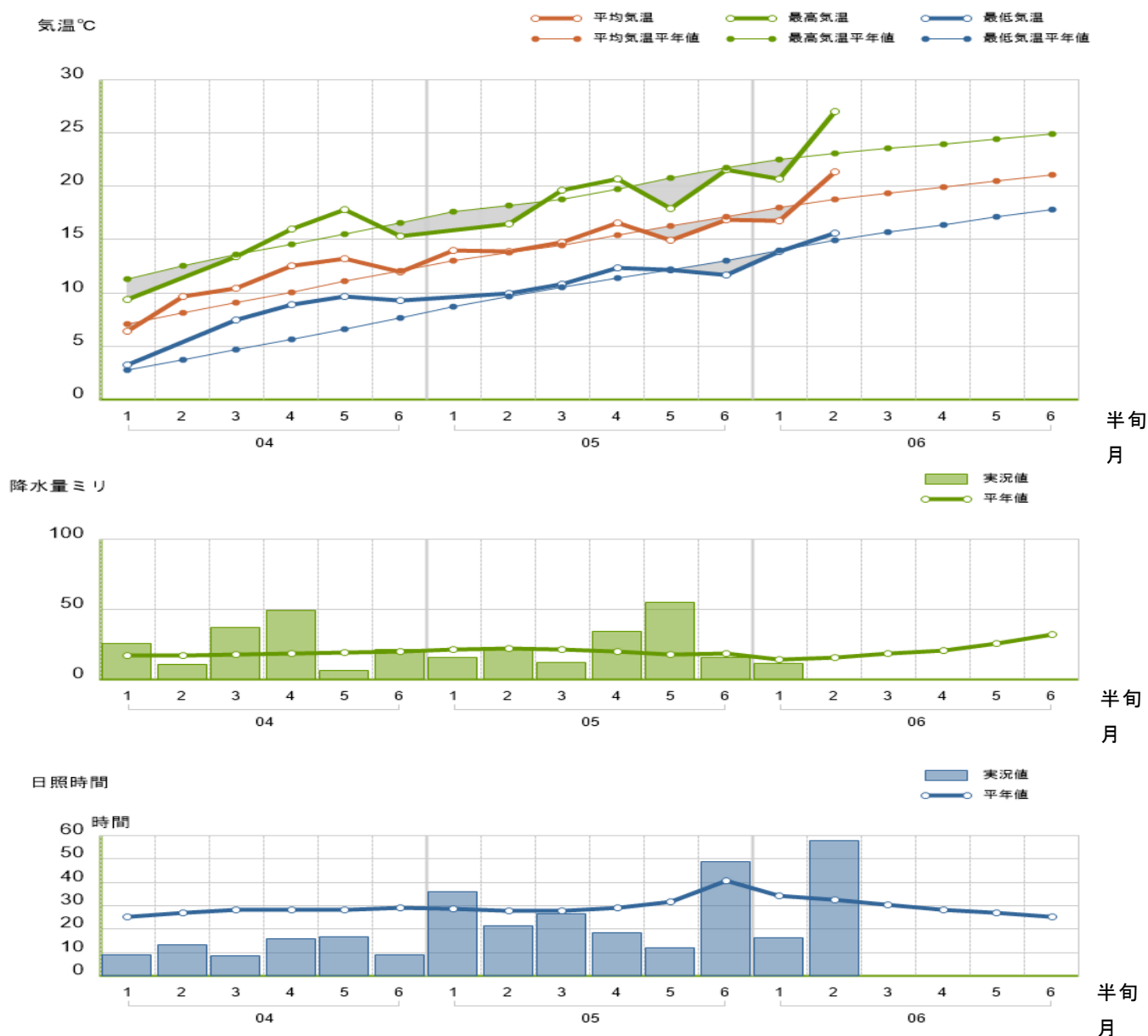


図1 気象経過と平年値 (アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用)

〈概況〉

管内の田植盛期は平年より2日遅い5月20日でした。

6月10日の定点調査結果(あきたこまち)は、茎数が111本/㎡(平年比72%)、草丈は22.2cm(平年比86%)、葉数は6.2葉(平年差-0.3葉)でした。移植後の低温や異常還元の影響を受け、活着が遅れ、生育が停滞したほ場が多く、分けつの発生が抑制されたと考えられます。浅水管理により分けつの発生を促進しましょう。

表 水稻定点調査結果(6月10日調査)

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
栽植密度	19.1株/㎡	103%	99%
草丈	22.2cm	86%	87%
茎数	111本/㎡	72%	79%
葉数	6.2葉	-0.3葉	-0.5葉

※ 管内定点ほ場9地点(あきたこまち)の平均値

2 異常還元(ワキ)に注意し、適切な水管理で分げつ発生促進を

分げつは日平均水温で23～25℃、日温度較差が大きい場合に発生が促進されます。水温を高めるため浅水管理を実施しましょう。また、日温度較差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行います。

本年は表層はく離やアオミドロ等藻類の発生が多く、ほ場で確認されています。これらの発生が多くなると水温や地温が低下し、稲の生育が抑制されます。対策として、気温の低い早朝や雨の日に水の入れ替えを行いましょう。

また、根の生育と茎数の増加には高い相関があることが報告されています。異常還元(ワキ)が発生しているほ場では一時的に落水して、土壌を酸化的にし、根の伸長を促しましょう。

3 目標茎数を確保したら、無効分げつの抑制を

あきたこまち(目標収量 570kg/10a)の目標穂数は440本/㎡です。目標穂数と同じ茎数を確保したら、中干しや深水管理により分げつの発生を抑制します。中干しの実施期間は7～10日程度とし、幼穂形成期(7月15日頃)前には必ず終了します。

＜茎数440本/㎡の目安＞

- ・70株/坪植え・・・・・・1株当たり約20本
- ・60株/坪植え・・・・・・1株当たり約23本
- ・50株/坪植え・・・・・・1株当たり約28本

4 病虫害防除は適切に実施しましょう

①いもち病

余り苗で発生したいもち病は周辺ほ場への強力な伝染源となるため、余り苗は水田内に埋めるなどして直ちに処分してください。オリゼメート粒剤(2kg/10a)及びルーチン粒剤(1kg/10a)の散布適期は移植栽培で6月15日頃(6/12～18)、直播栽培で6月23日頃(6/20～25)です。

②斑点米カメムシ類

5月27日に病虫害防除所から発表された令和7年度農作物病虫害発生予察情報発生予報第2号によると、斑点米カメムシ類(第1世代)の発生時期はやや早い、発生量は平年並と予想しています。本県の主要種であるアカスジカスミカメは水田内のホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵し増殖するため、斑点米被害を回避するためには水田内雑草を確実に防除することが重要です。

中・後期除草剤の使用に当たっては、草種や生育程度を観察して効果の高い剤を選択するとともに、散布適期を逃さないようにしましょう。



5 熱中症対策を万全に

この時期はまだ暑さに身体が慣れていないため、熱中症のリスクが高まります。のどが渇く前に水分補給を行い、同時に塩分も摂取しましょう。少しでも不調を感じたときは無理せず休むようにしてください。

◇次号は6月27日頃の予定です。

県(水田総合利用課)の情報発信 LINE アカウントをご活用ください！

* 県内の水稻生育状況
* 水稻・大豆の技術情報
* 異常気象対策 など
様々な情報が発信される予定です。



友達登録はこちらの
QRコードから！